

お仏事の姿と教化

■手が合わさる姿

私たちが平時、お勤めをしている儀式は形に則った姿です。この形とは、私たちが教えを頂いた姿が目に見える形で表現されているのです。御本尊に合掌礼拝し儀式を行う姿は、南無阿弥陀仏に見える形で頂いた姿であり、阿弥陀さまに南無と頭が下がった姿です。

しかし、私たちは本当に頭が下がったのか、下げただけなのか、南無阿弥陀仏と言っただけなのか、申す身となったのかわかりません。

先日、6歳になる子どもと別院の公園に遊びに行き、本堂の前を横切ったときに、子どもが本堂に向かい自然と合掌をしている姿が、何か心を揺らされる美しい姿に見えました。この合掌している姿を見てふと、以前、日頃手を合わせることにないような方が御本尊に手を合わせている姿に感動したことを思い出しました。その姿を見て、この方も子どもも教えを頂いたのかどうかはわかりません。しかし、偏に手が合わさる姿にただ感動したのです。「方便ともうすは、かたちをあらわし、御なをしめして衆生にしらしめたまうをもうすなり、すなわち、阿弥陀仏となり」(『一念多念文意』)と親鸞聖人が言われるように、南無阿弥陀仏と称え

頭が下がった姿は、方便法身の姿となられた阿弥陀如来の姿を頂いた証でもあるわけです。頂いた姿に感動があるわけです。

■仏事から自信教人信へ

浄土真宗では、親鸞聖人のご命日を、教えを頂いた感動の姿を報恩の仏事として形にあらわした報恩講として、お勤めしてまいりました。

今年も高山別院では11月1日から11月3日の3日間、報恩講が勤まりました。2日の夜の御伝鈔拝読は、例年と違った形で勤まりました。「御伝鈔」は正式には「本願寺聖人伝絵」と言います。宗祖親鸞聖人の御生涯を、「信行両座」「弁円済度」など感慨深いエピソードを交え報恩の情を込め著された伝記で、その絵巻物の詞を味わいながら、伝統的な作法で拝読され勤められてきました。

今年は、「御伝鈔の夕べ」として、例年の伝統的な拝読作法に加え、異国楽器音楽が融合するこれまで無い全く新しい調べの中で親鸞聖人の御生涯を偲びました。これは今までの伝統や仏事を廃するものではなく、親鸞聖人の御生涯の物語の世界観を新たに表現し、広くその姿を顕現し感動を生み出すあゆみを試みたものです。親鸞聖人の御生涯を味わい新たに表現することは、これまで伝わってきた御伝鈔の伝統があったからこそです。「かたちをあらわし、御なをしめして衆生にしらしめ



高山別院報恩講「御伝鈔の夕べ」、11月2日に執行。御伝鈔の拝読にあわせて、曾爾テラワキ氏(音楽家)が異国楽器による音楽を奏で執り行われた。

たまうをもうすなり」と、先に引用した方便法身の姿となられた南無阿弥陀仏の教えから私たちが仏事の形として発信することもできるのではないのでしょうか。

教えに出遇った姿が形となり、その姿に感動する人が生まれてくる。このことは自信教人信「自ら信じ人を教えて信ぜしむ」と言えるだろう。私たちが教えを頂いた姿を普段勤めている仏事に姿、形であらわしていくことが大事な教化につながっている。法要、儀式を形骸化するのではなく、教えを頂いた姿として表現し、形をなしていくことの重大さを頂きながら仏事を執行していけたらと念じます。

高山別院列座

高山1組 専念寺衆徒

小原 正寛



★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

報恩講御礼 慶讃法要お待ち受けとして執行

11月1日～3日、飛騨御坊高山別院報恩講が勤修されました。引き続きコロナ感染に配慮しての執行となりましたが、3日午前には帰敬式も帰敬式法座として執行され、105人の方が受式されました。

今年度は、来年本山で厳修される慶讃法要のお待ち受けの場として、海老原章岐卓高山教務所長の挨拶、お待ち受け記念事業として、森清奏子氏によるハープ演奏や、「御伝鈔の夕べ」(列座による御伝鈔拝読と曾爾テラワキ氏による異国楽器音楽のコラボレーション)も開催されました。「御伝鈔の夕べ」については初の試みであり、YouTubeで配信もされ全国的に反響が続いています。

なお、各位から御懇志を賜りましたこと、準備から当日の進行において関係各位のご協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。



第41回 真宗公開講座が始まりました 11月1日 細川好園氏(三条教区護念寺)



世の中のすべてが諸行無常の中にあり、そこに自分も入っておったという実感を果たして感じているのか。老病死から逃げられない私たちに、「南無阿弥陀仏」が真理だと教えてくれる。諸行無常の真っ只中であって、私たちは本物になっていく、本願に遇うのだと語られました。

令和の飛騨御坊振興計画(案)について

本年度の各組輪番巡回に際し、「高山別院の教化と維持運営」についてご説明をし、「別院経常費の増額」のお願いについてお話をさせていただきました。

10月中旬に各御寺院様、各組門徒会長様に郵送にて「令和の飛騨御坊振興計画(案)」を提示させていただいております。

年末までに各組長様より各組で出されたご意見をご報告いただき、別院護持会、責任役員会等、関係諸機関との打ち合わせをさせていただきます。

別院本堂にキャラクター看板登場



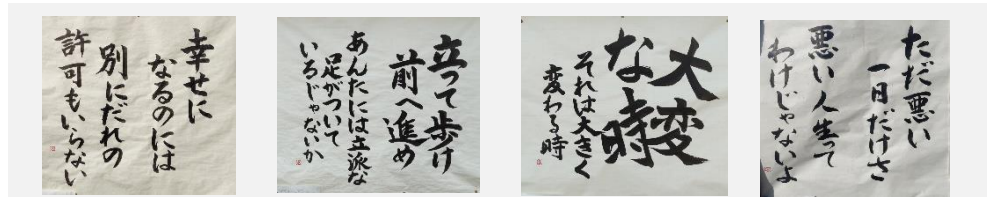
このたび、高山別院公式キャラクターたちにより親しんでいただこうと、本堂にさなひめ(佐奈姫)・サンガ(僧伽)くん・ごぼじい(御坊爺)、そしてお釈迦さまのキャラクター看板が設置されました。本堂のどこにいるか、ご参拝の際に探してみてください!

本山報恩講ライブ配信で「ごぼうチャンネル!」CM放映

11月21日～28日に厳修された本山報恩講のライブ配信において、新たに制作した「ごぼうチャンネル!」CM動画が配信されました。



中高生の法語掲示



■在家仏教②—ヤサの家族の入門

仏伝によると、その後ヤサとその仲間たちがお釈迦様の話を聞いて、同じように出家得度していきということが起こってきます。インドにベナレス（別名ヴァラナシ）という町があります。ガードといって、インドの映像でよくガンジス川の川岸に段々がつくってあって、そこで沐浴をする風景がよく出ますけれども、あの一番有名な沐浴をする聖地として、ベナレスという町があります。

お釈迦様の頃はベナレスと言わずカーシーと言いました。現在でもそうですが、お釈迦様の時代もカーシーという町は絹織物の産地です。カーシー（ベナレス）は、お釈迦様のお話をされたサルナートから数キロほど歩いて行ける距離です。それで、お釈迦さまを含めた6人の出家者たちがカーシーの町に托鉢に来た時、ヤサという青年に会い、ヤサがお釈迦様の姿に惹かれてお話を聞いて出家しました。ヤサという青年は、カーシーの町の大きな商人の息子だったと言われ、もう結婚もしていました。インドでは、今でも早い人は15歳くらいで結婚します。そういう家族や結婚した妻も捨てて、あらゆる関係を断っていくのが出家です。

それで、息子が出家して家を出て行くことになって驚いたのは、ヤサの父親であり家族です。なぜ息子が出家するのだということで、お釈迦様を招いて話を聞こうということになりました。その時、ヤサのお父さんやお母さんや妻がお釈迦様の話を聞いて、「私達も仏教の教えを学んでいく者になりたい」と申し出ました。お釈迦様は、「あなたたちは出家をせずに、在家者として仏教を学ぶのがよいだろ

う」と勧められ、在家のままで仏教者となるということが初めて起こります。

だから、在家仏教が始まったのはかなり早い段階で、お釈迦様も認められておられたということになります。どちらかと言うと、仏教とは出家するというのが本筋で、在家仏教というのは、出家できない者のために後からできたおまけの仏教のように思われがちですが、それは違います。大谷派は在家仏教ですけれども、自分たちは、おまけのような仏教だと思っていたとすれば、それは違います。

他より聞かずして、世尊の辺に於いて法教を聞くを得て、仏への帰依を受け、法への帰依を受け、僧への帰依を受け、ならびに五戒を受く。時に人間において彼の長者は、最も初首に優婆塞となる。人身の中、三白を以て、三帰依を成じたるは、謂わく耶輪陀の父なり。（略）

時に、世間に、当に是の日において、最初に人中において三帰、受戒し、先ず優婆夷となるは、所謂、長老耶輪陀の母、および長老耶輪陀の婦なり。

『仏本行集経』

初めの引用は、ヤサのお父さんが初めて三帰依をもって在家の仏教者（優婆塞→在家の男の仏教者）となりましたということ。2番目の引用が、お母さんと妻ですね（優婆夷→在家の女の仏教者）。

そして、在家の仏教者であることの一つの形として、在家者の戒として五戒（不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒の在家者の戒）を受けます。

三白とは、三帰とありますように「帰依仏・帰依法・帰依僧」と3回称え、仏と法と僧に帰依するという誓いを立て、この三帰依を、生涯を貫く宝としていくことをとおして、在家の仏教というものが証されるということが始まりました。

■三帰依文—在家仏教の視点

ですから、今我々が唱えている三帰依文は、出家仏教で唱えるものと全くいっしょですが、『仏本行集経』によれば、三帰依というのは、在家仏教の出発にあたって開かれた大事な視点であるとも言えることができます。在家出家に限らず、仏と法と僧に帰依するということは、全ての仏教徒に通じることですが、在家仏教の出発にあたって、そういうことが開かれたということが、非常に重要なことであろうと思います。

パーリ文の「ブッダン・サラナン・ガッチャーミー」ですが、あのパーリ文の三帰依というのは、どこの仏教徒も唱えるので、インドに行ってお参りするときに、「ブッダン・サラナン・ガッチャーミー」というと、他の国の仏教徒も同じように唱えてくれます。世界共通の言葉であり、仏教を表すのです。仏と法と僧というのが、仏教を表している。この三宝に帰依することをもって、在家であっても仏教者であるということが始まったと言えるのではないかと思います。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話『響』12月

- 白川 明子氏（高山2組願生寺代務者）
- 三島 多聞氏（高山別院輪番）
- 岩崎 正親氏（朝日高根組正覺寺住職）
- 四衢 亮氏（高山1組不遠寺住職）

web ひだご坊でも「一口法話」配信中！

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

第41回 真宗公開講座 共通テーマ:立教開宗とは

12月6日(火)午後2時《500円》主催:真宗同朋会

講師:大島義男師(雲集学舎主宰) 講題:本願の欲生心成就

1月17日(火)午後2時《500円》主催:真宗同朋会

講師:藤井慈等師(三重教区慶法寺) 講題:「首の飛ぶような念仏」

2月1日(水)午後2時《500円》主催:大谷専修学院 青草びとの会

講師:狐野秀存師(大谷専修学院院長) 講題:真宗の生活—安心と法義

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2022年12月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場			
1	木				19	月	19:00	組 高山2組親鸞教室②	御坊会館			
2	金				20	火	19:00	教 教化研究所	研修室			
3	土	13:00	別 三日のご坊 法話:三島多聞氏(別院輪番)	本堂	21	水	13:00	別 おすす払い	本堂			
4	日	14:00	組 益田組帰敬式法座	桂林教会	22	木	13:00 13:30	別 松すべき 教 企画会議	研修室			
5	月	13:30	教 教化研究所課題別講義	研修室・Web	23	金	15:30	組 高山1組 組会	研修室			
6	火	14:00	セ 真宗公開講座 (講師:大島義男氏)	御坊会館	24	土						
7	水				25	日						
8	木				26	月						
9	金	19:00	組 高山2組親鸞教室①	御坊会館	27	火	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂			
10	土		教 岐阜別院報恩講団参	岐阜別院	28	水	7:00 13:00	別 一日華 別 親鸞聖人御命日 法話:石井 宗氏(西教寺住職)	本堂			
11	日	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番)	御坊会館	29	木		教 教務所冬期休暇 ~1月9日				
12	月	13:30	セ 青少年部会	研修室	30	金						
13	火	7:00 13:30	別 前往上人ご命日 組 高山2組組会	本堂 研修室	31	土	23:00	別 万灯会				
14	水				2023年1月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。							
15	木	7:00	別 半日華		日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
16	金				1~3		別 修正会	13	金	13:30	組 高山2組 組会	
17	土	19:00	組 法名に関する懇談会(朝日高根組)	圓城寺	6	金	別 鏡開き	17	火	14:00	セ 真宗公開講座	
18	日	13:00	別 納骨経	本堂	12	木	19:00	組 高山2組親鸞教室③				